

補中益気湯が男性不妊患者の精液所見と治療成績に与える効果について

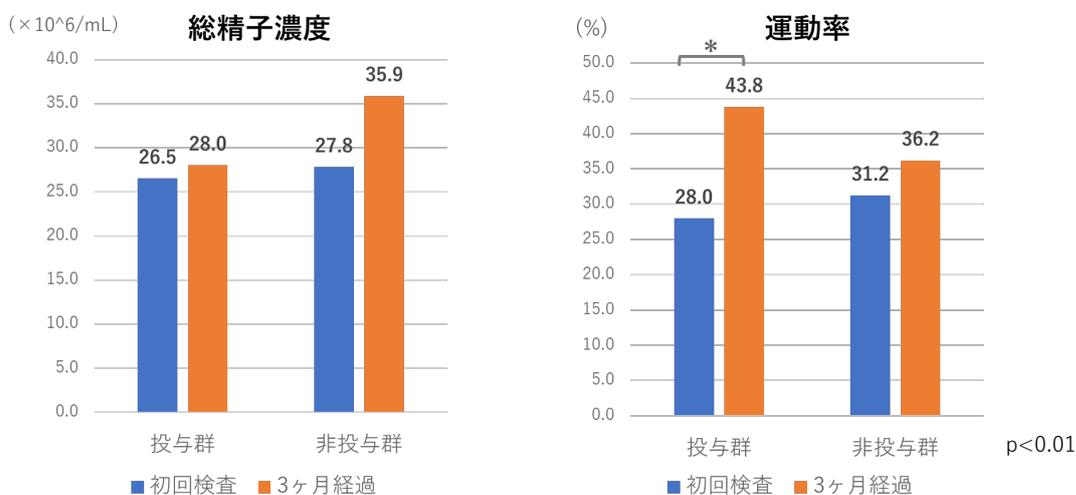
当院の男性外来では、初診時の精液検査で乏精子症や精子無力症と診断された男性の方に、補中益気湯という漢方薬の内服を提案させて頂いています。

今回、この補中益気湯が精子の濃度や運動率、また、妊娠率や体外受精の培養成績へ与える効果について調べました。

2017年1月～2021年5月までに実施した初診時の精液検査において、乏精子症または精子無力症と診断された男性 237 名を対象に、3 か月以上経過後の、以下①～③について、投与・非投与群で比較しました。

- ①精子濃度と運動率 : 投与群 176 症例 非投与群 61 症例
- ②全治療の妊娠率 : 投与群 111 症例 非投与群 34 症例
- ③体外受精の培養成績と妊娠率 : 投与群 108 症例 非投与群 32 症例

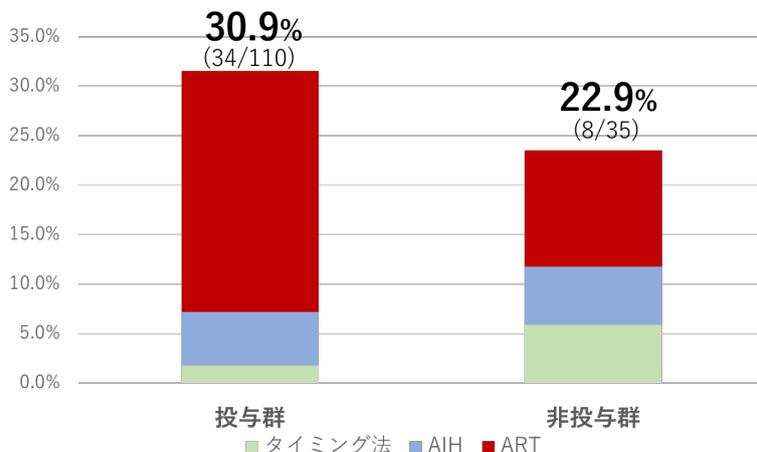
【結果 ①精子濃度と運動率】



総精子濃度については、投与群・非投与群ともに 3 か月後の所見は初回の検査に比べて優位な差はありませんでしたが、**運動率**については、**投与群**において、3 か月後に有意な改善がみられました。

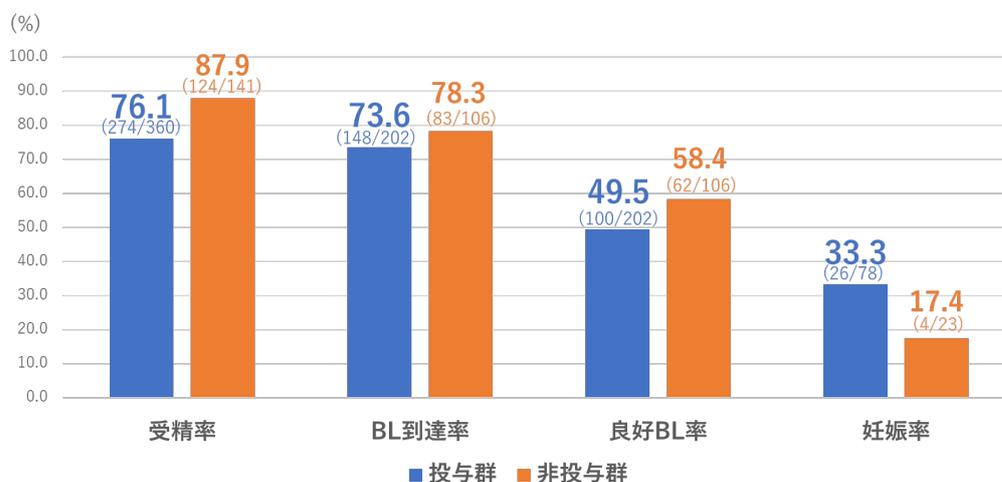
【結果 ②全治療の妊娠率】

3 か月経過後、初回治療周期で妊娠した症例



初回検査から3か月経過した後の、初回治療周期において臨床妊娠を示した症例の割合と、その治療内容の内訳をグラフに表しています。投与群が110症例中34例の30.9%と非投与群が35症例中8例の22.9%と、有意差はありませんが、**投与群で高い傾向にありました。**

【結果 ③体外受精の培養成績と妊娠率】



体外受精における培養成績と妊娠率について、初回検査から3か月以上経過した後に体外受精をおこなった症例の初回周期の受精率、胚盤胞到達率、良好胚盤胞到達率を投与群、非投与群間で比較しました。いずれの値も、投与群と非投与群で比較して有意差はなく、顕著な差はみられませんでした。

【結論】

補中益気湯の服用によって、運動率の顕著な改善がみられました。

このことから、服用は精液所見の改善に効果があると言えます。

しかし、原因や体質によっては効果が全く現れない方や、3ヶ月よりも長い期間の服用でようやく効果が表れる可能性も考えられます。

また、妊娠率については、統計的に有意差はなかったものの、投与群で高い傾向にありました。

妊娠に至るまでには、精子の状態だけではなく、卵子の質や着床環境など、他にも様々な要因が存在します。

服用を継続することで精子の状態を出来る限り良い状態にしておくと同時に、治療状況によってはステップアップも検討していくことが、効率よく治療をすすめる上では重要と考えます。

培養士 川本